

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大学名	北海道大学
整理番号	A101
事業名	持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築の課題解決に関わるチームワーク型国際共同研究力育成プログラムとして、日印両国の架け橋となってグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、北海道大学とインド工科大学（IIT）ボンベイ校、同マドラス校、同ハイデラバード校との協働で実施されたものである。 事業展開では、学生の派遣・受入については日印のアカデミックカレンダーの相違に配慮しながら日印双方の機関が緊密に連携して円滑に実施され、双方の教員による合同評価体制を確立することによって質の高い教育カリキュラムを提供した点が評価できる。特に、社会インフラに焦点を当てた専門教育や派遣大学の研究室において国際共同研究体験を行うインターンシップを実施する一方で、言語・文化を重視した教育プログラムが双方向で行われ、その結果として、実践的なグローバル人材の育成が実施されたことは高く評価できる。また、透明性、客観性の高い厳格な成績管理に加え、北海道大学とIIT3校の代表から構成される国際運営委員会によって適切かつ厳格な修了認定が行われたことで、本事業における教育の質の保証が担保された。更には、日印サステナブル開発コンソーシアムを発足させ、プログラム参加学生と企業が交流する機会を設けた点も、キャリア教育の一環として評価できる。 今後の展開についても、既に補助期間の終了した2つの大学の世界展開力強化事業と本事業とを発展的に融合させ、大学院特別教育プログラム「One Program for Global Goals（OGGs）」を立ち上げている。この取組は、大学の世界展開力強化事業にとって、補助期間終了後の自走化に向けたモデルの一つと成り得るとともに、大学教育のグローバル展開力の強化に貢献することが期待できる。 一方で、学生の交流実績については、日本人学生の派遣数、インド人学生の受入数ともに目標数に達することができなかった。特に、中間評価時の「日本側のチームリーダー型プログラムへの参加者が少ない」という指摘に対して十分に対応できていなかった。ともに、新型コロナウイルス感染症の蔓延に影響を受けたものと推察できるが、今後は、本事業の成果をもとに、日印間の協働によるグローバル人材育成ポストプログラムを持続的、発展的に運用していくことが望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	